

仮想ストレージが拓く次世代センター

「ETERNUS VS900」により 新システム、サービス構築を迅速化

投資を抑えつつスピード経営、現有資産の有効活用等を図る解決策として、ストレージの仮想化が注目を集めています。富士通のコーポレートIT推進本部 インフラシステム部は「ETERNUS VS900パーチャリゼーションスイッチ」を導入し、いち早く仮想ストレージ環境を実現。サービス構築の迅速化、投資効率の拡大等を図っています。



左/コーポレートIT推進本部 ITシステム統括部 インフラシステム部長 斎藤 孝
右/コーポレートIT推進本部 ITシステム統括部 インフラシステム部 稲垣 明

データ量増大と投資抑制への解答、 仮想ストレージ

富士通社内のITを推進しているコーポレートIT推進本部、なかでもインフラシステム部では、基幹システムをはじめ4つの社内センター及びネットワークの企画から運用、管理までを行っています。

「IT全般統制への対応もあって日々バックアップデータは増幅していますが、これにあわせてストレージを増やしていけば投資面で多くの無駄が生じてきますし、運用管理も煩雑となり効率的ではありません。またストレージのリプレースに伴い遊休資産化している旧世代ストレージの有効活用や、ビジネスの変化にあわせた柔軟性、新システムやサービス構築の迅速化への対応も求められています。こうしたストレージの課題を解決する鍵が“ストレージの仮想化”です」と、斎藤は背景を説明します。

「ETERNUS VS900」の導入により、必要なときに必要なディスク容量を短時間で提供できる仕組みが実現できます。「例えば、複数ストレージを一つの仮想ストレージとして活用することにより、A部門の事業が急激に伸びてディスクスペースが必要になった場合、ディス

クスペースに余裕のあるB部門やC部門から借りて対応するといった、業務状況にあわせたフレキシブルなディスクの使い方が可能になるのです」(斎藤)。

社内業務の仮想ストレージシステムは2007年5月に稼働。「従来、数日、数週間を要していたディスク容量の提供が1時間以内で可能になりました。また企業においてストレージ容量の50%近くが使われていないという調査結果も出ていますが、これに基づけば全体ディスク容量6テラバイトのうち3テラバイトの領域が仮想化により利用可能になったといえます。導入費用もディスクストレージ新規設置と比べ約100万円ほど抑えられました。今後、仮想ボリュームの規模拡大によりTCO削減等も一層期待できます」(斎藤)。

将来、ニーズに応じてストレージを増設する場合も非常に容易です。「仮想ストレージにアクセスしているサーバはストレージ装置そのものを意識することがないため、ストレージの新規追加等に伴うデータ移行も非常にスムーズに行えます」(稲垣)。

今後の展開について「当部では社内実践も重要なミッションの一つです。ファイルサーバへの活用や、ブレードサーバとの組み合わせによる開発環境の迅速な提供、データの重要度にあわせたディスクの使い分け等、「ETERNUS VS900」活用の広がりを事業部とともに考え、実践する中でノウハウを蓄積し、お客様の投資効果の拡大に貢献したいと思います」と、稲垣は語ります。

※コーポレートIT推進本部は、2008年4月1日より「富士通CIT株式会社」となりました。本記事は2008年3月に取材したものです。